

ASIAN WOMEN'S FUND

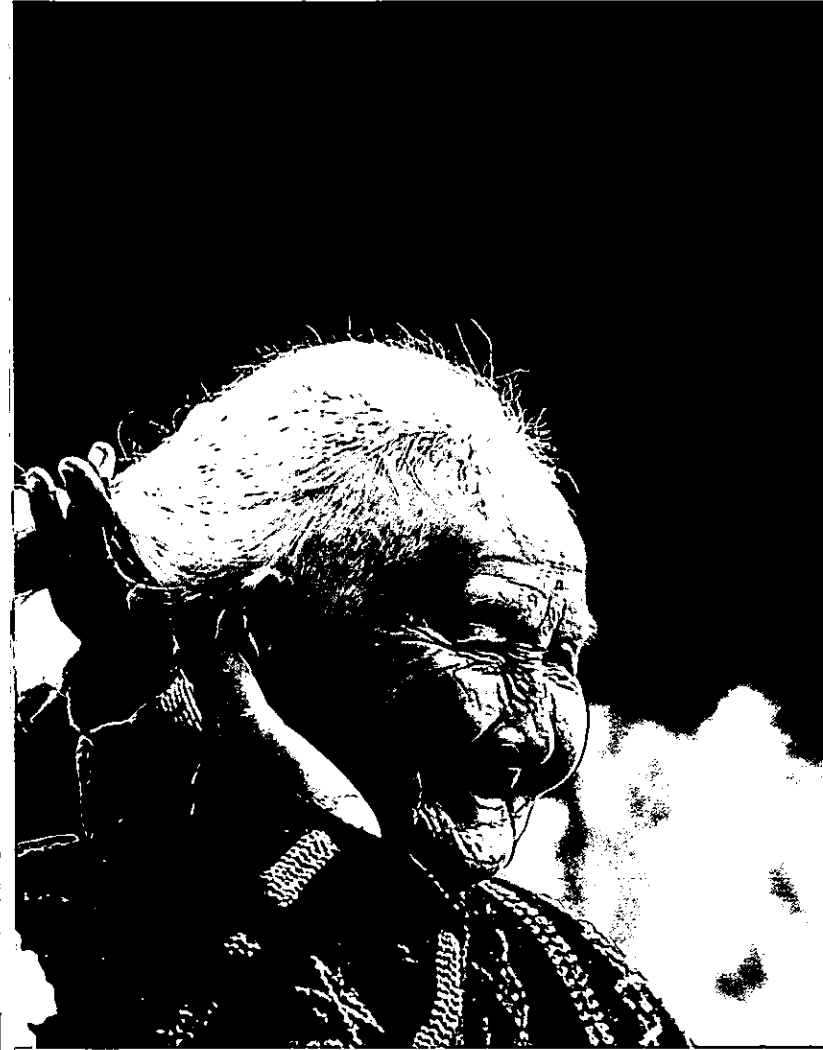
アジア女性基金の事業

**財団法人 女性のためのアジア平和国民基金
(アジア女性基金)**

「償い」から「つながり」へ



©Deng Ru-yi(China)



アジア女性基金がめざすもの

戦後半世紀以上がたち、私たちは平和と繁栄そして社会的安定を手にしてきました。しかし、先の戦争において、いわゆる従軍慰安婦として心身にわたる癒しがたい傷を負った女性たちの、苦しみと悲しみを忘れることはできません。

また、今なお世界各地で多くの女性が、武力紛争下での暴力や、職場や地域社会での性的いやがらせ、ドメスティック・バイオレンス（夫や恋人からの暴力）や虐待などのいわれなき暴力や非人道的な扱いに苦しんでいます。

アジア女性基金は、元「慰安婦」の方々への償いを行うとともに、深い反省の上になつて、二度とこのような問題を起こさないように、「女性に対する暴力」など今日の女性をとりまく問題への解決を目的として、1995年に政府の決定により設立されました。

アジア女性基金は、女性の人権が尊重される平和で自由な社会の構築をめざし、アジア近隣諸国とわが国の友好に寄与したいと、さまざまなプログラムを通じてネットワークをひろげていきます。

More than half a century has passed since the end of World War II, and in that time Japan has achieved peace, prosperity and social stability. However, the pain and suffering of the so-called 'comfort women', who still carry the physical and psychological scars of the cruelty inflicted upon them during the war, should never be forgotten.

Today, many women still suffer from violence and inhumane treatment throughout the world as can be seen from the horrendous sexual crimes committed against women under armed conflicts, sexual harassment in the workplace and community, and domestic violence, violence against and ill-treatment of women at the hands of their husbands or partners.

Established in 1995 based on a decision of the Japanese Government, the Asian Women's Fund (AWF) aims to convey Japanese people's gesture of atonement to the former 'comfort women' and help solve contemporary problems facing women, such as violence against women, so as not to allow the same mistakes to be repeated again.

To help advance friendship between Japan and its Asian neighbors and build a peaceful and free society where women's rights are respected, the AWF has been striving to foster a network of goodwill and action through the implementation of various projects.

What is the Asian Women's Fund designed to do?

ASIAN WOMEN'S FUND

女性に対する 暴力のない社会を めざして。

Aiming to Eradicate Violence against Women



人の生きる権利や社会に参加する権利には、性による違いがあってはなりません。それにもかかわらず、女性の人権に対する社会の認識は依然として低く、人身売買、セクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）、ドメスティック・バイオレンス、援助交際など女性であるがゆえの問題は、地域・国を問わず絶えず発生しています。アジア女性基金は、女性の人権や尊厳に対する社会の認知を高め、被害を未然に防止し、女性も男性も平和で自由に生きることのできる社会をめざしています。

Human rights, such as the right to live and the right to take part in social, must apply equally to men and women. The reality, however, is that social awareness of women's human rights is still low, and women face various forms of gender-specific problems, such as sexual harassment, domestic violence, child prostitution and under-age sexual exploitation, regardless of the region or country in which they live. The Women's Dignity Project aims to enhance social recognition of women's human rights and dignity and prevent women from becoming victims of abuse in order to build a society where women can live with peace and freedom.

パパ、どうしてママをぶつくの…

小さな障にうつるのが、暴力をふるうあなたの姿だったら

夫や恋人からの暴力(ドメスティック・バイオレンス(DV))。その本当の恐ろしさ、あなたは考えたことがありますか? 母する父親の暴力が、とれたけ子どもたちのことを悩んでいるかを。暴力をふるったり、怒鳴ったりする姿が、とれたけ深い傷跡として残ってしまうから。ドメスティック・バイオレンスを見た切開いたりしている子どもたちは、毎日そのことを悩み、このことを痛めています。しかし、そんなに早くも思っても、誰かに助けを求め、打ち明けようとはなかなか出来ません。なぜなら、子どもたちは、その小さな時で見た光景を、このままに閉じ込めて、悲憤さえる待たせようから。悔いてはとうしようもないことなのに、たった独りで悩ま苦しんでいます。家庭の中で繰り返される身体的、精神的、性的暴力(ドメスティック・バイオレンス)は、子どもたちの心身に深刻な影響を与えます。決して許してはいけません。

03-3971-8553 03-3971-3711

財団法人 女性のためのアジア平和国民基金

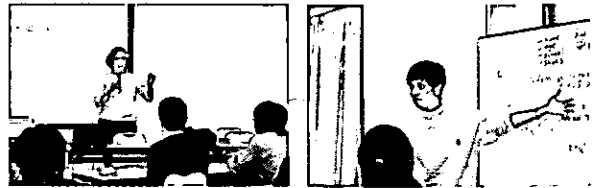
〒102-0074 東京都千代田区大塚1-7-4 東京大塚ビル344号 TEL: 03-3971-4071 FAX: 03-3971-4072 URL: <http://www.aswf.or.jp> E-mail: dgquery@aswf.or.jp

女性の名誉と尊厳を護るためのさまざまな活動を通じてネットワークをひろげます

The Asian Women's Fund strives to expand the network of action through various activities geared towards protecting the honor and dignity of women



アジア女性基金ニュース
Asian Women's Fund News



援助者のためのワークショップの開催
Workshops for Support Workers

ひろめる

普及啓発事業

Awareness projects inform and educate the public

TV番組の制作、セミナーの開催や「基金ニュース」、ポスター、冊子などの発行を通して、女性の人権を護ることの大切さを社会全体に伝えるよう、啓発活動を行います。

支える

支援事業

Assistance and training projects for the development of NGO/NPO and of human resources of various specialists handling victims of violence against women.

女性の人権問題に取り組む民間非営利団体(NGOやNPO)の活動を支援します。また援助者のための研修会などを開催します。

アジア女性基金

Asian Women's Fund

つなぐ

交流事業

International conferences and open fora projects to foster exchange of knowledge and experience as well as to create mutual understanding

国際会議やフォーラム等の実施を通じて、国内外で女性の人権を護る活動を続ける人々との、情報交換や意識の共有を促進します。



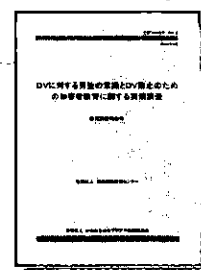
第7回犯罪及び刑事司法に関する世界会議を共催
The 7th International Conference on Crime prevention and Criminal Justice was held jointly with ACPF

知る

調査研究事業

Research and investigation activities as well as dissemination of information

国内外で起きている女性への人権侵害行為の実態や、女性の人権を尊重する社会づくりの方法などに関する調査や研究の実施および支援を行い、情報提供を行います。また、歴史の教訓として未来に引き継いでいくために、国内外での諸資料の収集と閲覧、資料の刊行を行っています。



調査・研究報告書類
Research and Study Reports

元「慰安婦」の方々への償い事業に協力して下さったみなさまへ

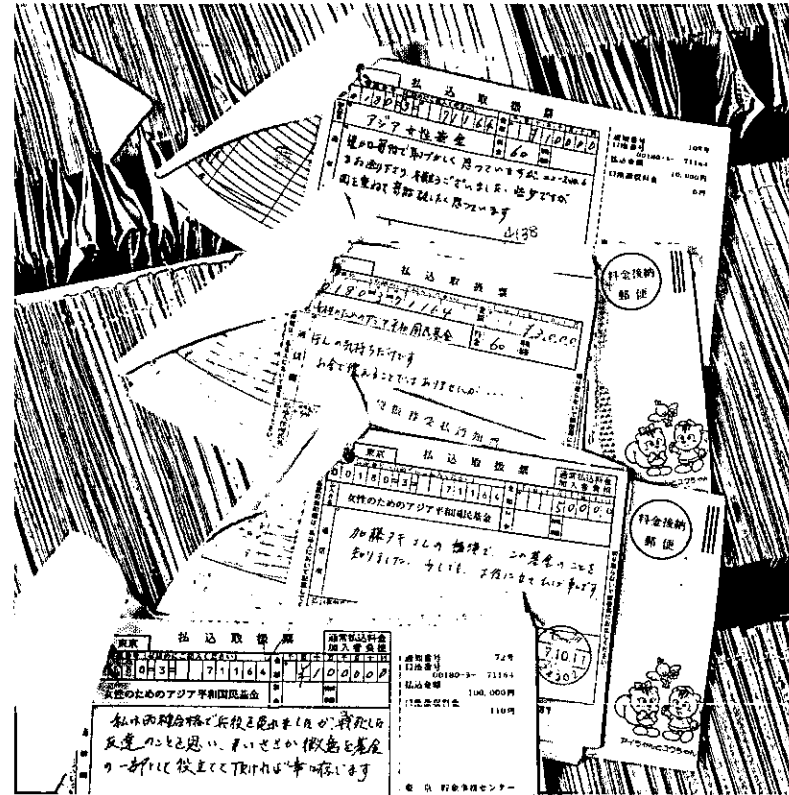
Gratitude to all Contributors for Atoment Project

財団法人女性のためのアジア平和国民基金（略称、アジア女性基金）は、1995年に発足して以来8年になります。

このたび、フィリピン、韓国、台湾における償い事業の実施が終了いたしました。「慰安婦」とされた方々にお届けする「償い金」のための募金にご協力いただいたみなさまに感謝し、厚く御礼申し上げます。

8 years have passed since the establishment of the Asian Women's Fund in 1995, and the atonement projects by the AWF were recently completed in the Philippines, the Republic of Korea and Taiwan.

The Asian Women's Fund would like to express our deep gratitude to all who donated atonement money for those who were forced



募金とともに寄せられた拠金者からのメッセージ
Messages received from contributors in addition to donations

償い事業

について

Atonement Project for Former "Comfort Women"

先の大戦は、日本国民や諸外国、とくにアジア諸国の人々にも甚大な惨禍をもたらしました。なかでも、十代の少女までも含む多くの女性を本人たちの意思に反して「慰安婦」としたことは、女性の根源的な尊厳を踏みしめる残酷な行為でした。

アジア女性基金は、道義的な責任に基づき日本政府と国民の、「慰安婦」とされた方々に対する、お詫びと反省をあらわす事業を実施しています。とりわけ、国民からの募金と政府資金で実施された償い事業は、すでに高齢となられた被害者の方々の苦痛を少しでもやわらげていただくため、政府と国民の協力によって進めてまいりました。

償い事業として、国民からの寄付による「償い金」200万円と内閣総理大臣のお詫びの手紙、政府資金による医療・福祉支援事業としての財・サービスを、元「慰安婦」の方々にお届けしました。この事業は、1996年8月のフィリピンを皮切りに、韓国、台湾の3カ国・地域でスタートし、その後、インドネシア、オランダに対し償い事業を実施してきました。

Atonement Money The AWF provided atonement money to those former "Comfort Women" in the Philippines, Korea and Taiwan, amounting two million yen for each person from Japanese People's donation.

Medical and Welfare Assistance Projects Financed by the Japanese Government, the AWF provided the former "Comfort Women" in the Philippines, Korea, and Taiwan, with medical and welfare support, including the provision of nursing care products, like wheelchairs, nursing services, pharmaceutical goods and medicines, housing improvement, etc. taking into account of individual circumstances of each former "Comfort Women". In the Netherlands, the AWF supported the project to provide goods and services in the medical and welfare field conducted by the Project Implementation Committee in the Netherlands. The project in the Netherlands supposed July 2001. In Indonesia, the AWF supports social welfare project for aged people conducted by their Government of Indonesia, which is expected to complete in 2007.

Letter from the Prime Minister of Japan The Government of Japan, recognizing that the suffering inflicted upon the former "Comfort Women" was a grave affront to the honor and dignity of women, has publicly expressed its sincere apologies and remorse. Together with the atonement money, the letter from the Prime Minister expressing these sentiments was extended to each recipient.

「償い事業」を受け取られた方々から Reactions of the recipients to the Atonement Projects

- ◎「私は総理の手紙にたいへん満足しています。やっと認められました。私のために努力していただいてありがとうございました。」
- ◎「金銭的な補償だけでなく、私が15歳の時、耐えなければならなかったすべての苦しみと悔いが認められたのです。今もまだずっと開いている、でもそれとともに生きなければならなかった傷をやわらげてくれました。」
- ◎「日本のみなさんがわたしの妻にしてくださった親切を忘れません。これからわたしが祈りを捧げる時には、かならず日本のみなさんの幸せをもお祈りします。」
- ◎「自分の意思で『償い事業』の受け入れを表明しました。でも、多くの人は、『国家補償でない人間としての尊厳は取り戻せない』と、私を非難しました。いまでも、私をさげすみの目で見る人々はいらぬ、私が強かんされた過去の事実は消えません。でも、アジア女性基金を受け入れることと、裁判を続けることは矛盾しません。妨げになるものでもありません。」
- ◎もう一度総理のお詫びの手紙を取り出してゆっくり読み返したSさんは、同じ被害者で長年の友人に向かって、「もういいでしょう。ゆるしてくれ」とここに書いてある」と微笑みました。
- ◎Kさんは、総理のお詫びの手紙が読み上げられると突然、「わたしは結婚して子どもも欲しかったのに」と叫び、しぼるような声で泣き出しました。駆け寄った基金の理事が肩を抱き泣きに泣いたあとは、総理のお詫びの手紙の最後にある署名を、「は、し、も、と…」とつぶやきながら一字ずつ指でなぞり、「この人にね、わたしが有難うございますと言っていたと、日本に帰ったら伝えてくださいね」と言葉を添えました。

拠金者からのメッセージ Messages from Japanese Contributors

募金に協力した一人ひとりの気持ちを表しているこのメッセージを、「償い事業」を受け取られた方々に翻訳してお渡ししました。The AWF translated these supportive messages that express the feeling of each contributor and delivered them to the recipients.

- ◎元「慰安婦」の方々の気持ちを思うと痛んでなりません。誠に小額ですが、日本人の一人として謝罪と償いの気持ちをお送りしたいと思います。（東京都杉並区・女性）
- ◎私も少年時代に戦争を経験した者ですが、当時を顧みて気持ちばかりの拠金をさせていただきます。どうぞ元「慰安婦」の方々には楽しい余生を送って下さるよう、願ってやみません。（千葉県習志野市・男性）
- ◎侵略戦争が、かけがえのない個人の人生に取り返しつかない悲惨な死や苦しみ、悲しみをもたらすことを私たち日本人は直視しつつ、後世に語り続けねばならないと考えています。（東京都中野区・男性）
- ◎少額ですが募金させていただきます。「償い金」の一人あたりの額はその人の人生を踏みしめたにはわずかのようですが、日本人の良心の証とするために、最後まで頑張ってください。（宮城県仙台市・男性）
- ◎日本人の責任として償いをせねばと思います。貧者の一灯です。ご活用下さい。（千葉県佐原市・男性）
- ◎78歳もくせんの老いの身ですが、頭の隅で戦後「償い」の未解決が気になり、なかなか安心往生できません。わずかですが大河の一滴にでもなればと念じています。（福井県福井市・女性）
- ◎中学3年生です。学校の総合学習で従軍慰安婦について勉強しています。戦争の被害にあわれた方々に学べば学ぶほど、かわいそうな気持ちで涙が出てきます。少しですが、お小遣いから募金します。（千葉県干潟町・中学生）

沿革

- 1991 12月 政府が朝鮮半島出身のいわゆる従軍慰安婦問題について調査を開始
- 1992 7月6日 政府が「朝鮮半島出身のいわゆる従軍慰安婦問題について」（第1次調査）の結果を発表
- 1993 8月4日 政府が「いわゆる従軍慰安婦問題について」（第2次調査）の結果を発表
河野洋平内閣官房長官が「慰安婦関係調査結果発表に関する内閣官房長官談話」を発表。「いわゆる従軍慰安婦として数多の苦痛を経験され、心身にわたり癒しがたい傷を負われたすべての方々に対し、心からお詫びと反省の気持ちを申し上げる」と表明
- 1994 8月31日 村山富市内閣総理大臣が「内閣総理大臣の談話」で、いわゆる従軍慰安婦問題についてあらためて「心からの深い反省とお詫びの気持ち」を述べて、幅広い国民参加の道を目指す考えを表明
- 1995 6月9日 「歴史を教訓に平和への決意を新たにす決議」衆議院本会議で決議
6月14日 五十嵐広三内閣官房長官が、「女性のためのアジア平和友好基金」（仮称）の事業内容、政府の取り組み及び基金の呼びかけ人を発表
7月18日 呼びかけ人の「呼びかけ文」、村山富市内閣総理大臣「ごあいさつ」発表
7月19日 女性のためのアジア平和国民基金（アジア女性基金）発足、東京都港区内に事務所開設
8月11日 政府、アジア女性基金の事業に協力する旨、閣議了解
12月8日 総理府および外務省共管の財団法人として設立許可される
- 2001 1月6日 中央省庁等再編に伴い、所管省庁は外務省になる



理事長・村山富市（元内閣総理大臣）
President Tomiichi Murayama (Former Prime Minister)

- 1991 Dec. The Government starts the fact-finding study on the issue of the so-called "Comfort Women."
- 1992 Jul. 6 The Government publicly announces the results of its first study on the issue of the so-called "Comfort Women."
- 1993 Aug. 4 Japanese Government releases the results of its second study (report entitled, *On the Issue of Wartime "Comfort Women"*). Chief Cabinet Secretary Yohei Kono issues a statement on the results of this study, saying, "The Government of Japan extends its sincere apologies and feelings of remorse to all those who suffered much pain and incurable physical and psychological damage as so-called 'Comfort Women'."
- 1994 Aug. 31 Prime Minister Tomiichi Murayama issues a statement expressing once more his "profound and sincere remorse and apologies" with regard to the "Comfort Women" issue, and states his desire to find an appropriate way to enable the wide participation of Japanese people in the expression of such feelings of remorse and apology.
- 1995 Jun. 9 Plenary session of the House of Representatives passes a resolution entitled, "Renewing Japan's Determination for Peace, Taking to Heart the Lessons of History."
Jun. 14 Chief Cabinet Secretary Kozo Igarashi gives information on projects of the proposed Asian Women's Fund (provisional name at that time), outlines the Government's role and names Fund proponents.
Jul. 18 The Asian Women's Fund's Proponents issues "An Appeal for Donations for the Asian Women's Fund." Remarks by Prime Minister Tomiichi Murayama are released. Both appear in newspapers throughout Japan.
Jul. 19 The Asian Women's Fund is established, and its offices open in Minato-ku, Tokyo.
Aug. 11 The Cabinet consents to the Government cooperating with Asian Women's Fund projects.
Dec. 8 The Asian Women's Fund is given authorization to act as a non-profit foundation, under the joint jurisdiction of the Prime Minister's Office and the Ministry of Foreign Affairs.
- 2001 Jan. 6 The Asian Women's Fund is placed under the jurisdiction of the Ministry of Foreign Affairs, as part of the restructuring of government ministries and agencies.

役員(理事、監事)

- 理事長 村山 富市 元内閣総理大臣
- 副理事長 石原 信雄 地方自治研究機構理事長、元内閣官房副長官
大鷹 淑子 元参議院議員
- 専務理事 伊勢 桃代 元国連研修人事政策部長
兼事務局長
- 理事 有馬真喜子 ジャーナリスト、前国連婦人の地位委員会日本代表
衛藤 清吉 東京大学名誉教授
大沼 保昭 東京大学教授
岡部 謙治 全日本自治団体労働組合(自治労)副中央執行委員長
金平 輝子 元東京都副知事
草野 忠義 日本労働組合総連合会(連合)事務局長
下村 満子 ジャーナリスト
宮嶋 勇 元経済企画庁長官
山口 達男 元駐シンガポール大使・スペイン大使
和田 春樹 東京大学名誉教授
- 監事 橋本 豊 学校法人誠美学園常任理事

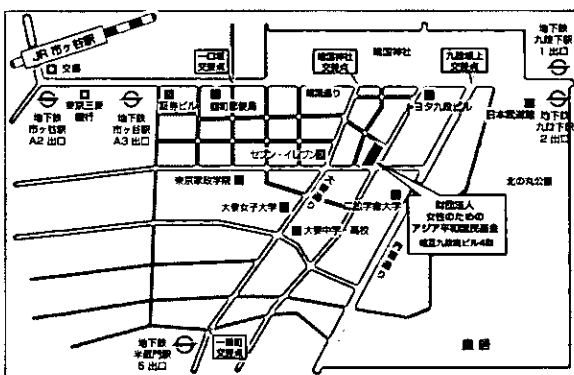
評議員

- 赤松 良子 元文部大臣
- 石原 一子 フォーブス日本版・顧問委員
- 枝村 純郎 元駐ロシア大使
- 紀 嘉一郎 元総務庁官房審議官
- 林 誠子 日本労働組合総連合会(連合)副事務局長
- 若菜 允子 弁護士

運営審議会委員

- 委員長 横田 洋三 中央大学教授、国連大学学長特別顧問
国連人権促進保護小委員会委員
- 委員 高橋 宗司 津田塾大学教授
野中 邦子 弁護士、全国人権擁護委員会連合会女性問題委員長
橋本ヒロ子 十文字学園女子大学教授
林 陽子 弁護士
山口 茂記 全日本自治団体労働組合(自治労)政治政策局長
山口 達男 元駐シンガポール大使・スペイン大使
和田 春樹 東京大学名誉教授

(2003年現在)



財団法人 女性のためのアジア平和国民基金 (アジア女性基金)

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-7-6 相互九段南ビル4階
電話03-3514-4071 FAX 03-3514-4072
URL <http://www.awf.or.jp> e-mail dignity@awf.or.jp

Asian Women's Fund

4th Floor, Sougo Kudan Minami Building, 2-7-6, Kudan Minami,
Chiyoda-ku, Tokyo 102-0074, JAPAN
Phone: 81-3-3514-4071 Fax: 81-3-3514-4072
URL <http://www.awf.or.jp> e-mail dignity@awf.or.jp

Directors

- President Tomiichi Murayama
Former Prime Minister
- Vice - President Nobuo Ishihara
*President, Research Institute for Local Government
Former Deputy Chief Cabinet Secretary*
Yoshiko Otaka
Former Member of the House of Councilors
- Executive Director Momoyo Ise
*Former Director, Specialist Service Division, Office of
Human Resources Management, U.N.*
- Director Makiko Arima
*Journalist, Former Japanese Representative to the
U.N. Commission on the Status of Women*
Shinkichi Eto
Professor Emeritus, University of Tokyo
Yasuaki Onuma
Professor, University of Tokyo
Kenji Okabe
*Vice-President of Executive Committee, All Japan
Prefectural and Municipal Workers' Union*
Teruko Kanehira
*Former Vice-Governor of the Tokyo Metropolitan
Government*
Tadayoshi Kusano
Chairperson, Japan Trade Union Confederation(RENKO)
Mitsuko Shimomura
Journalist
Isamu Miyazaki
Former Minister of State, Economic Planning Agency
Tatsuo Yamaguchi
Former Ambassador to Singapore and to Spain
Haruki Wada
Professor Emeritus, University of Tokyo

Auditor

Yutaka Hashimoto
Permanent Director, Seibi Gakuen School

Councilor

Ryoko Akamatsu
Former Minister of Education
Ichiko Ishihara
Member of Advisory Committee, Forbes Japan
Sumio Edamura
Former Ambassador to Russia
Kaichiro Kino
*Former Secretariat Councilor, Management &
Coordination Agency*
Seiko Hayashi
*Vice - Chairperson, Japan Trade Union
Confederation(RENKO)*
Mitsuko Wakana
Attorney-at-Law

Advisory Committee

Chairperson Yoza Yokota
*Professor, Chuo University; Senior Advisor to the
Rector of U.N. University; Member of Sub-commission
on U.N. Human Rights Commission*

Members

Soji Takasaki
Professor, Tsuda College
Shigeki Yamaguchi
*Director of Political Department, All Japan Prefectural and
Municipal Workers' Union*
Kuniko Nonaka
*Attorney-at-Law; Chairperson of the Committee on
Women's Issues, National Federation of Consultative
Assemblies of Civil Liberties Commissioner*
Hiroko Hashimoto
Professor, Jumonji Gakuen Women's University
Yoko Hayashi
Attorney-at-Law
Tatsuo Yamaguchi
Former Ambassador to Singapore and to Spain
Haruki Wada
Professor Emeritus, University of Tokyo